

II 特別シリーズII

科学技術  
振興機構

『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第100回

横浜市立大学の活動報告



高橋隆幸  
(横浜市立大学国際  
総合科学部准教授)

テーマは「日本とタイにおける  
コーポレート・ガバナンスの比較」

1. プログラム詳細

横浜市立大学国際総合科学部高橋ゼミが招へいたのは、以前から交流のあった、タイのソクラーナカリン大学でした。ソクラーナカリン大学(Prince of Songkla University)は1967年タイ南部の教育普及、産業発展のために設立された国立総合大学です。現在南部5か所にキャンパスがあり、総学生数は約3万5000人。プーケット校は1993年に開校した最も国際色豊かなキャンパスで、アセアン諸国、中国をはじめヨーロッパからの長期留学生も含め、学生数は約3500人、外国人教員も多くいます。国際学部、ツーリズム・ホスピタリティ学部、環境工学部が設置されており、QS国際大学ランキングでは、国内5位の実績があります。よって、ソクラーナカリン大学の学生とより深く交流を行うことは、本学にとって得る



会話も弾んだウェルカムパーティー

ものが多  
いと考  
ました。  
また今  
回の交  
流のテ  
ーマと  
して、  
日本と  
タイに  
おけ  
るコー  
ポレ  
ット・  
ガバ  
ナンス  
を選  
択し  
ました。  
日本は  
アジア  
諸国  
と比較  
すると、  
発

本市場を有し、多くのグローバル企業があります。欧米諸国の企業統治手法のアジアでの受容という意味では先進的に取り組んでおり、これからますます発展してグローバル企業を育てようとしているタイの学生にとっても刺激的なテーマであると考えました。  
初日の2月27日の夜にソクラーナカリン大学の職員と学生たちが羽田空港に到着しました。羽田空港まで迎えに行き、そのままホテルまで案内しました。  
翌日、ソクラーナカリン大学の方々を本学へ招き、ウェルカムパーティーを行いました。初めて食べる多くの日本食に驚きつつも、楽しく食事をするのができました。中でもタイの人気だったのは、枝豆とから揚げでした。会話も楽しむことができ、本校の雰囲気も感じてもらえたのではないかと思います。  
3日目には、全員で日本科学未来館を見学しました。宇宙や精密機械等の日本の最新技術を体感し、多くの知識を得ることができました。日本側の学生たちにとっても、まだまだ知らないことが多くあるのだと実感しました。  
4日目は5日目に行く最終報告の準備を行い、5日目には最終報告を迎えました。私たちが行った発表およびイベントは両国のコーポレート・ガバナンスについてでしたが、今回のプロジェクトに参加したださった学生と教職員のほぼ全員が初めての来日ということもあり、両国の都市や文化、両大学の特徴についてもプレゼンテーションを行いました。ディスカッションを通じ相互理解を深めることができました、とても有意義な時間でした。

プログラム	
1日目	羽田空港到着、ホテルまで案内
2日目	ウェルカムパーティー、大学案内、発表準備
3日目	科学未来館見学、浅草案内
4日目	発表準備
5日目	最終報告
6日目	羽田空港にて見送り



宇宙等日本の最新技術を体感(科学未来館)



日本科学未来館を見学



最後に記念撮影



コーポレート・ガバナンスについて発表

最後に、さらにサイエンスプログラムに参加する機会を与えてくださったJSTの方々、大学の教職員の方々、プログラムの参加してくださったソクラーナ大学の教職員ならびに学生の皆さんに厚く御礼を申し上げます。

今回のプログラムを通じて、タイという国をより身近に感じることができました。グローバル化が進む中、私たちが今後知るべきことも学ぶことができました。また、短い時間ではありましたが、ソクラーナカリン大学と本校、並びに私たち高橋ゼミの交流が一層深まったと確信しています。これは大きな財産であり、今後も良い関係を続けていきたいと思えます。さらにサイエンスプランに参加できたことは貴重な経験です。参加した学生は、今以上に海外を身近に感じたいと思います。テーマについては、今回はコーポレート・ガバナンスをテーマにしました。これまでは両国の会計制度や税制、企業の海外進出などをテーマとしてきました。今年度も、ソクラーナカリン大学に訪問する予定ですが、業種を絞って両国の企業経営の共通点と相違を議論する予定です。

## 2. プログラムの成果

さくらサイエンスプランの主旨を踏まえ、日本科学未来館や宿泊先への移動の際に東京・横浜周辺の観光や案内も行いました。プログラムの行程を通じてソクラーナカリン大学の学生および教職員の全員に日本のコーポレート・ガバナンスがどのようなものであるか、日本・日本という国がどのような国であるか伝えることができました。また、私たち高橋ゼミも同様にタイについて知ることができました。

ソクラーナカリン大学とはこれまでに高橋ゼミが2015年、2016年にタイに赴き、国際交流をしていましたが、今回初めてソクラーナカリン大学を日本側に招待することができました。日本側が訪れる片道通行の交流ではなく、実際に日本を体験してもらうことで、双方に利益のある形で両校の関係を発展させることができましたように感じます。

さらに当初の目的である日本とタイのコーポレート・ガバナンスについて理解を深めることのみならず、プロジェクトの設計から実施終了後の処理まで一連の仕事を行うことで、国際交流活動におけるノウハウを蓄積することもできました。今後もさくらサイエンスプランを通じて得た知識や技術が様々な環境において活用されることを確信しています。

## 3. 今後の展望

今回のプログラムを通じて、タイという国をより身近に感じることができました。グローバル化が進む中、私たちが今後知るべきことも学ぶことができました。また、短い時間ではありましたが、ソクラーナカリン大学と本校、並びに私たち高橋ゼミの交流が一層深まったと確信しています。これは大きな財産であり、今後も良い関係を続けていきたいと思えます。さらにサイエンスプランに参加できたことは貴重な経験です。参加した学生は、今以上に海外を身近に感じたいと思います。